

平成30年度 津幡町立津幡中学校 学校評価中間報告書

(★津幡町共通評価項目)

※1：より肯定的な回答・1+2：肯定的な回答

重点目標		取組の方向性	主担当	・昨年度の現状 →今年度の方向	評価の観点 前期の結果と◇H30県教員調査結果	達成度判断基準 ※1・1+2 判定基準：B以上		判定		前期学校評価結果から
								1	1+2	
○実効性の高い取組の推進と検証による見直しの徹底	1 4つの力(挨拶、校歌、清掃、思いやり)を高めるための指導の徹底	(1)より良い人間関係づくりのための取組の充実	生徒指導主事	・楽しくないと答えた生徒へのケアが大いに必要である。 ・やや下降気味である。安心して過ごせる学校づくりに努めていく。 →適切な人間関係づくりのための取組が求められる。	生 級友と仲良くするようにがんばっている <u>(70%・96%)</u> 生 友だちには思いやりの心で接している <u>(63%・97%)</u> 保 わが子は友だちと仲良く学校生活を送っている <u>(48%・94%)</u> 教 思いやりの心で友だちと接するように指導している <u>(70%・100%)</u> 生 学校へ行くのが楽しい <u>(50%・91%)</u> 保 わが子は学校へ行くのを楽しみにしている <u>(38%・89%)</u> 生 学級は居心地がよい <u>(47%・89%)</u> 教 生徒間や教師・生徒間の人間関係が温かなものになるよう、学年・学級経営の充実に努めている <u>(67%・100%)</u> 生 先生は悩みとかには親身に相談に乗ってくれ、良い点を褒めてくれる <u>(42%・87%)</u> 保 先生は子どもを理解して、親身に指導・相談をしている <u>(22%・85%)</u> 教 生徒との信頼関係が築けるよう働きかけている <u>(61%・100%)</u>	A 80%・95%以上 B 70%・90%以上 C 60%・85%以上 D 60%・85%未満	A 60%・95%以上 B 50%・90%以上 C 40%・85%以上 D 40%・85%未満	B C D B	A A A	・人間関係のトラブルは少なくなり、総じて良好な結果が見られる。これからも保護者との連携を図っていかなければならない。 ・楽しくないと答えた生徒へのケアをしながら、学年・学級経営の充実に努めていく。
		(2)挨拶、校歌、清掃指導の創意工夫	生徒指導主事	・挨拶はまだまだ個人差が見られる。今後も粘り強く指導していかなければならない。 ・校歌の状況は、生徒の意識が低下している →より一層の指導の工夫が求められる。	生 家庭や学校ではしっかりあいさつしている <u>(56%・94%)</u> 保 わが子は家庭や学校でしっかりあいさつしている <u>(31%・85%)</u> 教 家庭や学校でしっかりとあいさつするように指導している <u>(70%・94%)</u> ◇県 (64%・96%) 生 校歌は大きな声で歌うようにしている <u>(27%・75%)</u> 教 集会などで、校歌を大きな声で歌うように指導している <u>(25%・81%)</u> 生 掃除には無言でまじめに取り組んでいる <u>(42%・89%)</u> 教 掃除を無言でまじめに行うように指導している <u>(61%・97%)</u>	A 80%・95%以上 B 70%・90%以上 C 60%・85%以上 D 60%・85%未満	A 50%・90%以上 B 40%・80%以上 C 35%・70%以上 D 35%・70%未満	D D B	B C B	・まだまだ個人差が見られる。今後も指導していく。 ・まだまだ足りない。指導の工夫が必要である。 ・もっと高めていかなければならない。
	2 取組の一本化（生活目標と学習目標の達成に向けた取組、ポジティブアクション）と外部講師の有効活用	(1)実態に応じた月目標の設定と具体的取組の単純化	生徒指導主事 学習C	・生徒にとって、取り組む内容や数が多すぎて中途半端となっていた。 →単純化し、職員も一丸となって取り組むことが必要である。	生 毎月の目標達成に向けて、積極的に取り組んでいる <u>(29%・81%)</u> 教 毎月の目標達成のために、根気強く指導している <u>(33%・82%)</u>	A 80%・95%以上 B 70%・90%以上 C 60%・85%以上 D 60%・85%未満		D D	D D	・ここまで取り組んできたが、積極的に、根気強く進めていたか、となると十分とはいえない。
		(2)ゲストティーチャー（GT）として外部講師を活用した教育活動の展開	教頭 主幹	→昨年度、GTを活用した取組が充実していた。他にも活用できないかを検討していく。	教 GTを活用した教育活動を行っている <u>(7%・20%)</u>	A 2回以上 B 1回 C 0回		-- --	-- --	・今後も活用の場を設けていく。
	3 確実な情報共有ができる組織体制の構築	(1)効果的な「総括ミーティング→学年主任会←学年会」の実施	教頭 主幹	→より一層の情報共有が必要と捉え、新たな組織体制を構築する。	教 学年の情報共有の機会が十分されている <u>(46%・85%)</u> 教 学年の情報が十分に伝わっている <u>(36%・82%)</u>	A 60%・95%以上 B 50%・90%以上 C 40%・80%以上 D 40%・80%未満		C D	C C	・何が十分ではないのか、分析する必要がある。後期はその理由も問いたい。
		(2)検証の機会の確実な実施	教頭 主幹	・取組に検証が不十分である。	教 取組後の検証の機会が十分されている <u>(15%・73%)</u> 教 取組の検証が生かされている <u>(9%・76%)</u>	A 60%・95%以上 B 50%・90%以上 C 40%・80%以上 D 40%・80%未満		D D	D D	・何が十分ではないのか、分析する必要がある。後期はその理由も問いたい。

重点目標		取組の方向性	主担当	・昨年度の現状 →今年度の方向	評価の観点 前期の結果と◇H30県教員調査結果	達成度判断基準 ※1・1+2 判定基準：B以上		判定		前期学校評価結果から
								1	1+2	
○学力を高めるための取組と道德教育の充実	1 授業力や学級経営力を高めるための取組の充実	(1)校内研究会の充実と指導案作成の機会の設定（目標；2回）	研究主任	・教員の意識の高まりが見られる。今後も学力向上ロードマップに基づく取組を続けていく。 ・昨年度の指定研究の取組に伴い、充実した研究となった。	教 様々な機会 で指導案を2回以上作成した <u>(2回以上；18%、1回以上；94%)</u> 教 生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている <u>(30%・85%)</u> ◇県 (31%・95%) 教 課題設定や授業展開、教材・教具の開発など、学習意欲の向上を図るための工夫をしている <u>(47%・100%)</u> ◇県 (44%・96%)	A 2回以上 B 1回	A 60%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	-- D C	-- B A	・与えられた機会には頑張っており取り組んでいる。 ・工夫に努めているが、言い切れる回答が少ない。
		(2)ミニ研修会の実施	主幹	→若手を中心に行う必要がある。	教 ミニ研修会を行っている <u>(4回実施)</u> 教 ミニ研修会の内容が充実している <u>(39%・85%)</u>	A 月1回以上 B 月1回以下 C 年数回	A 60%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	-- D	A B	・若手を中心に研修を行ってきた。効果的な内容を今後も続けていきたい。
		★(3)メディアルームの有効運用とICT機器を活用した授業の推進	研究主任 視聴覚担当	→新たに設置したメディアルームの活用を図る	教 ICT(大型テレビやタブレット)を活用した授業を実施した <u>(34%・53%)</u> ◇県 (32%・68%)	A 60%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満		D	D	・より使いやすい環境づくりと共に、活用の効果を謳っていかなければならない。

	2 学力向上ロードマップに基づく取組の推進	(1) 学力調査の有効活用とその分析に基づいた取組の徹底	主幹 研究主任 学習 C	・新たな授業ルールに基づいた取組の成果が見られてきた。 ・家庭学習の習慣化に向けての取組を重点にしてきたが、数値的には昨年度を下回っている。指導方法の検討を要する。 →実効力のある学力向上ロードマップに基づく取組を進める。	生 授業がわかりやすい <u>(54%・89%)</u> 保 わが子は授業が分かりやすいといっている <u>(14%・75%)</u> 教 わかりやすい授業を行うよう工夫し、学力向上に努めている <u>(63%・100%)</u> 生 家庭学習を毎日している <u>(49%・83%)</u> 保 わが子は家庭学習をしっかりと取り組んでいる <u>(19%・62%)</u> 教 家庭学習の充実に向けた具体策を講じている <u>(21%・69%)</u> 生 自分で計画を立てて勉強している <u>(25%・67%)</u> 保 お子様は、自分で計画を立てて勉強している <u>(19%・60%)</u> 生 「授業ルール」を守って授業に参加している <u>(59%・95%)</u> 教 学習規律の定着を図り、学習意欲を高める指導に努めている <u>(64%・97%)</u> 教 学力向上ロードマップに基づき、取り組んでいる <u>(27%・79%)</u> ◇県 (32%・90%) 教 具体的な取組の実施後、検証し次の改善に生かしている <u>(39%・85%)</u>	A 40%・85%以上 B 35%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満 A 70%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満 A 70%・95%以上 B 60%・90%以上 C 50%・80%以上 D 50%・80%未満 A 50%・90%以上 B 40%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	A D A D D D D C B A D C C B	A C A D D D D A A A B	・概ね良好だが、授業者や教科によって差が見られる。教科部会で分析検討していく。 ・極めて大きな課題である。家庭で利用するスマホ等のメディアとのつきあい方と共に指導を進めていかなければならない。 ・個人的にはまだまだな生徒もいるが、概ね良好である。 ・今後も意識していかなければならない。
		(2) 津幡中学び合いスタイルの継続実施	研究主任	・学び合い活動やまための活動が自然に行われるようになってきた。 →構築された「津幡中学び合いスタイル」のより一層の充実を図る。	生 生徒の間で、話し合い活動や学び合い活動をよく行っている <u>(46%・83%)</u> 生 授業の最後に学習内容のまとめや振り返る活動を行っている <u>(48%・83%)</u> 教 学び合いを意識した授業実践に努めている <u>(44%・88%)</u> ◇県 (44%・93%) 教 課題解決的な学習、実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して、活用力を育成する指導をしている <u>(41%・84%)</u> ◇県 (30%・85%)	A 55%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	C C C C C	B B B B B	・形だけの学び合いから実のある学び合いへと転化していかなければならない。
		(3) 3 部会及び教科部会を生かした組織的な取組の充実	研究主任 主幹 学習 C 生徒指導主事	→システム化した 3 部会を生かした取組の充実を図る。	教 教科部会に意欲的に参加している <u>(34%・91%)</u> 教 教科部会の内容が充実している <u>(22%・88%)</u>	A 60%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	D D	A B	・今後も部会の充実を図っていかねばならない。
	3 教科化を踏まえた道徳授業の実施	(1) 授業参観による公開授業の実施	道徳推進教師	・教科化に向けた取組と理解がまだ十分とはいえない。	生 道徳の時間は好きだ <u>(27%・78%)</u> 教 普段の教育活動で、道徳性を育むための指導をしている <u>(50%・91%)</u>	A 40%・80%以上 B 30%・70%以上 C 20%・60%以上 D 20%・60%未満 A 50%・90%以上 B 45%・85%以上 C 40%・80%以上 D 40%・80%未満	C A	B A	・道徳の教科化に向けてより充実していきたい。
		(2) 校内研修の実施	道徳推進教師 研究主任	・専門家や実践家を通じて研修を深める必要がある。	教 道徳の校内研修を実施している (0 回)	A 2 回以上 B 1 回 C 0 回	--	--	・後期に予定している。

重点目標	取組の方向性	主担当	昨年度の現状 今年度の方向	評価の観点 前期の結果と◇県教員調査結果	達成度判断基準 ※ 1・1+2 判定基準: B 以上	判定		前期学校評価結果から
						1	1+2	
★ ○ 教職員多忙化改善に向けた取組の推進	1 町の方針に基づいた取組の推進	(1) 時間外勤務時間の平均を 1 か月 6 0 時間以下、最も多い月でも 8 0 時間を超えないこと	教頭	・昨年度の平均 前期: 73 時間 後期: 57 時間 ・昨年度の最も多い月 4 月; 85 時間	教 前期の平均時間と最大の月時間が町目標に達している <u>(4 ～ 6 月; 平均 76.2 時間、最大 130.3 時間)</u> ◇県平均 81.0 時間 A 平均60時間以下 最大80時間以下 B 平均70時間以下 最大90時間以下 C 平均70時間以上 最大9時間以上	--	C	・昨年度より平均 5 時間減少し、一定の効果は見られる。今後も意識していきたい。
		(2) 部活動の週 2 日の休養日(原則、水・日)の計画的な実施	教頭 部活動担当	・昨年度は週 1 回、月 2 回の土日の休養日と設定し、多くの部活動は遵守した。	教 週 2 日の休養日を計画的に取るように努めている <u>(69%・97%)</u> A 計画的にできた B 日曜日の休養日として指定以上取ることができた C できなかった	--	--	・月毎に計画及び報告、また年間計画も示したこともあり、概ね良好である。
		(3) 最終退校時刻(午後 8 時を原則とし、毎週水曜日は午後 6 時)の遵守	教頭	・ 80 時間超えの月別人数(40 人中) 4 月→9 月 20,19,19,15,2,21 1 0 月→3 月 14,15,7,9,6,7	教 80 時間超えの職員の数 <u>(36 人中 13 人、36%)</u> 80 時間超えの月別人数(36 人中) 4 月→7 月 16,18,18,8 教 平日 8 時以降(水曜日は 6 時以降)となる場合、管理職に連絡している A 20 % B 30 %未満 C 40 %未満 D 40 %以上 A 必ず連絡した B ほぼ連絡した C しないことが度々あった	--	C --	・固定化している。特に若手に多い。効果的効率的な業務遂行の手立てを進めていかなければならない。
2 業務の効率化を図るための取組の推進		(1) 校務支援システムの運用に向けた業務の効率化	教頭 主幹	→システムの運用に向けて準備を進める。	教 分掌作業を効率的に進めることができるように努めている <u>(30%・90%)</u> A 50%・90%以上 B 45%・85%以上 C 40%・80%以上 D 40%・80%未満	D	A	・意識は高まってきている。今後も継続していきたい。
		(2) 職員室 WB やスクール掲示板の活用(可視化による徹底)	主幹	・もっと有効に活用していかなければならない。	教 様々な連絡について、職員室 WB やスクールの活用に努めた A 50%・90%以上 B 45%・85%以上 C 40%・80%以上 D 40%・80%未満	--	--	・効果的な運用はまだまだである。P C 入れ替えの機会を活かしたい。
		(3) 共有サーバーの活用(教材、行事資料、分掌資料等)	主幹	・活用しやすいサーバーづくりが必要である。	教 サーバー内の教材資料が活用しやすい <u>(7%・59%)</u> A 50%・90%以上 B 45%・85%以上 C 40%・80%以上 D 40%・80%未満	D	D	・サーバーの整理整頓を図っていく。
		(4) スクール・サポート・スタッフ(S S S)の有効活用	教頭	→効果的な活用方法を検討しながら進めていく。	教 スクール・サポート・スタッフ(S S S)を活用しやすい <u>(13%・42%)</u> A 50%・90%以上 B 45%・85%以上 C 40%・80%以上 D 40%・80%未満	D	D	・活用されてきているがまだ一部の職員に限られている。広めていきたい。